

□【調査対象者】 第 5 学年 児童 5 名(男子 3 名 女子 2 名)

□【考察と展望】

○比較的良い結果だった種目

・握力 ・上体起こし ・長座体前屈 ・反復横跳び

体力づくりの実践として「一輪車」「縄跳び」「ストレッチ運動」を継続して行っており，その成果が少しずつ成果として表れている。学習発表会の演目となっている一輪車は，体育の授業はもとより，中休みや昼休みにも行っている。一輪車は，主に筋力(上体起こし)やバランス感覚の強化につながっている。昨年度から，授業開始時に取り入れたストレッチ運動は今年度も結果としてしっかり表れている。

●改善が必要と思われる種目

・シャトルラン ・立ち幅跳び

今年度も，持久走に課題がある。本校では 9 月末にマラソン記録会，その前 2 週間はマラソントイムと称して持久力を高める運動に力を入れているところである。しかし，数字に表れてこないということは，日常の取組が足りないということになる。まずは体育授業の運動量を増やす。次に遊びの充実(教員が児童と一緒に身体を動かす)により増やす。また，体力づくりのための環境も作り(一輪車)も大切である。家庭での取組もさらに促していかなければならない。また，立ち幅跳びにおいては日常の「縄跳び」では結果につながらないので，跳ぶ方向や腕の振り方についてもしっかり指導していく。

※少年団活動や運動系の習い事をしている児童はそう多くはない。そうになると，学校での体育授業や体育的な活動の充実が非常に重要となってくる。より一層の授業の工夫改善を図り，家庭と連携しながら日常的に体育の実践をしなければならない。

□運動習慣等調査より(抜粋)

1	運動は好きか？	好き・やや好き	100%
2	体力に自信があるか？	ある・ややある	60%
3	運動は大切か？	大切	100%
4	中学で部活等するか？	する	100%
5	休みの日にボール運動	よくある	40%
6	休みの日に腕を使う運動	よくある	40%
7	体育の授業は楽しいか？	楽しい	100%
8	ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある	ある	100%
9	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦	あてはまる	100%
10	自分にはよいところがある	あてはまる	100%

体力に自信がないと答える児童が半分近くいるにもかかわらず、運動嫌いがいなく、体育の授業を楽しみにしていることは非常に喜ばしいことである。回答が100%以外の設問に目を向けると、休みの日に身体を動かす児童が半分以下であることがわかる。ここでも家庭との連携の必要性がわかる。家庭への啓発や学校が地域やPTAと連携した活動を工夫していく必要がある。

□学年別の傾向

【1年生】男子3名 女子2名 (上体起こし 50M走)

○上体起こし、50M走ともに全国平均並み

【2年生】男子1名 女子4名 (上体起こし 50M走)

○上体起こし女子4名は全国平均を大きく上回る。

○50M走、男子は全国平均以上、女子は全国並み

【3年生】男子3名 女子3名 (全8種目)

○男子は全国並み 女子は全種目全国平均以上

【4年生】男子2名 女子3名 (全8種目)

○男子は立ち幅跳びで全国平均を下回り、総合しても全国より低い。

○女子は全種目全国平均以上

【6年生】男子5名 女子4名 (全8種目)

○男子も女子も個人差が大きく全体としては平均並み

※5年生で課題となった「シャトルラン」は3、4年にも課題である。立ち幅跳びについては、4年生女子以外も課題である。したがって、5年生の課題が学校全体の課題といえる。